



# RMX 1000 V1.1 入門ガイド



## 安全についてのご注意

システムを安全にご使用いただくため、以下のルールをお守りください。

- Polycom RMX 1000 ユニットの周辺をきれいに整頓し、換気の良い状態に保ちます。
- RMX 1000 が搭載されるラックを、アース付き電源コンセントに近い適切な場所に設置します。
- ラック下部にあるレベルアジャスタを床まで完全に届くようにして、ラックの全重量をアジャスタが支えるようにします。ラックからシステムを引き出す場合は、ラックが安定していることを確認してから行います。
- ラックを 1 基だけ設置する場合は、ラックにスタビライザを取り付けます。複数のラックを設置する場合は、ラック同士を連結します。
- 電源サージおよび電圧ノイズから RMX 1000 ユニットの保護し、停電時にも動作が継続できるよう、無停電電源装置 (UPS) を使用します。
- システムの電源装置に触れる必要がある場合は、システムの電源をオフにし、電源装置の温度が十分に下がってから行います。

## ハードウェア仕様

パラメータ	説明
形状	3U 19 インチ ラック マウント
高さ	132 mm
幅	430 mm
奥行	506 mm
重量	22 Kg
電源装置	温度制御 650W ATX AC 電源装置 PFC 付き
交流電圧	100~240 VAC、50~60 Hz、5~9 Amp

## RMX 1000 の開梱と設置

- 1 RMX1000 を、導入先の安定した場所に設置します。
- 2 RMX1000 デバイスをパッケージから慎重に取り出します。デバイスはラックまたは平らな面に設置します。
  - RMX1000 をラックに搭載する場合は、ラックの製造元から提供されたブラケットを、RMX 1000 を設置するラックの両側に取り付けます。RMX1000 を、ラックの前面に 4 本のネジで固定します。
  - ラックに搭載しない場合は、RMX1000 を平らで安全な場所に設置します。
- 3 ケーブルを RMX1000 のバックパネルに接続します。
  - 電源ケーブルは、接触不良を防ぐために、プラグを電源ソケットにしっかりと挿入します。
  - LAN ケーブルは、RMX 1000 の LAN1 ポートに接続します。

## コンフィグレーションの準備

### ネットワーク情報の取得

初回のコンフィグレーションを行う前に、ネットワーク管理者から次の情報を取得します。これにより、ローカルネットワーク上で RMX 1000 を構成することができます。

- RMX1000 の LAN ポートの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの IP アドレス
- ゲートキーパーの IP アドレス、RMX1000 に割り当てる H.323 プリフィックスと E.164 番号（ゲートキーパーを使用する場合）

### 製品アクティベーションキーの取得

RMX1000 を使用する前に、デバイスを登録してアクティベートする必要があります。製品アクティベーションキーを取得するには、次の手順を実行します。電源をオンにして RMX1000 に初めてログインすると、**[製品アクティベーション]** ダイアログ ボックスが表示され、製品アクティベーションキーの入力を要求されます。

- 1 ブラウザのアドレスバーに「**http://portal.polycom.com**」と入力して、Polycom Resource Center のログインページにアクセスします。
- 2 **[Login]** ボックスに Email アドレスとパスワードを入力して、**[Login]** をクリックします。新規ユーザの場合は、**[Register for an Account]** リンクをクリックして登録を行います。
- 3 インターフェイス上部のナビゲーションバーにある **[Service & Support]** をクリックします。**[Service & Support]** ページで、左側のナビゲーションバーにある **[Product Activation]** をクリックします。

## Service & Support

Overview
Professional Services
Support Services
White Papers
Service Descriptions
Services Sales Tools
Product Support
Product Registration
<b>Product Activation</b>
Knowledge Base

### Global Services



Polycom's Global Services are designed to meet the evolving collaborative communications requirements and business application needs. Polycom global Services delivers innovative solutions that cover planning, design, implementation support and Management spectrum

### Support



With tens of thousands of applications worldwide, Polycom's global knowledge, information, and expertise help you maximize your

» Product Support

- 4 [Product Activation] ページに移動します。[Single License Number] ペインに製品のライセンス番号とシリアル番号を入力し、[Generate] ボタンをクリックします。製品のライセンス番号とシリアル番号は、RMX1000 に付属するドキュメントに記載されています。[Key Code] フィールドに表示されるアクティベーションキーを記録します。

### Single License Number

Please enter the License Number and Serial Number of your product to generate a Key Code. To retrieve a previously enabled Key Code, please enter the product's serial number and leave License Number blank.

**License Number:**

**Serial Number:**

**Key Code:**

# 初回のコンフィグレーション

## PCを RMX1000 に接続

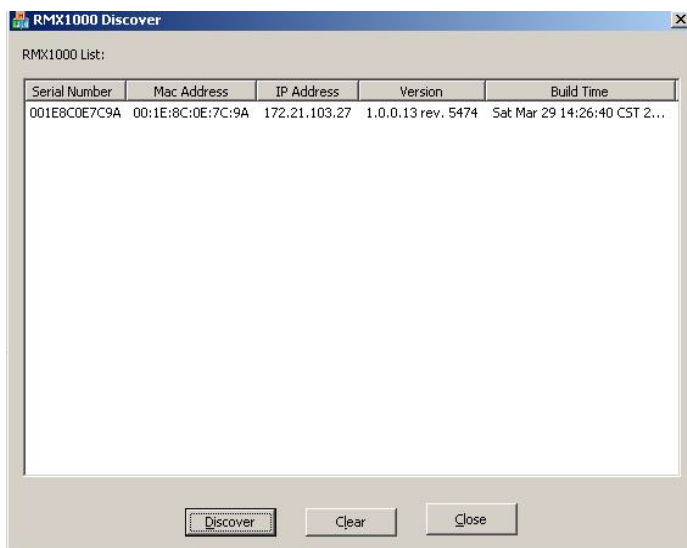
- 1 PC と RMX1000 の LAN1 ポート（デフォルトで有効）をクロスケーブルで接続するか、PC と RMX 1000 を、同一 LAN 上の同じスイッチに接続します。RMX1000 の電源スイッチをオンにします。
- 2 RMX1000 の IP アドレスと同じネットワークセグメント上にある IP アドレスを PC に設定します。

出荷前の RMX 1000 のデフォルトの IP アドレスは以下のとおりです。

- LAN1 ポートの IP アドレス — **192.168.1.254**
- サブネットマスク — **255.255.255.0**
- デフォルトゲートウェイの IP アドレス — **192.168.1.1**

製品の現在のアドレス情報は、デバイスに付属する RMX1000 Discover ツールを使用して確認することもできます。

- a. 製品の付属 CD に格納されている RMX1000Discover.exe ファイルを実行します。
- b. デバイスの現在のアドレス情報を表示するには、[Discover] ボタンをクリックします。



## Web UI へのログイン

- 1 PC で Web ブラウザを実行し、アドレスバーに「**http://<RMX 1000 の IP アドレス>**」と入力し、**Enter** キーを押します。
- 2 ドロップダウンリストから Web インターフェイスの言語を選択します。選択した言語が PC のブラウザまたは OS でサポートされていない場合、コンテンツは英語で表示されます。
- 3 [Welcome] インターフェイスで、デフォルトの**ユーザ名 (POLYCOM)** と**パスワード (POLYCOM)** を入力します。[ログイン] ボタンをクリックして、Web コンフィグレーションインターフェイスにログインします。



- 4 [製品アクティベーション] ダイアログボックスが表示されます。  
[アクティベーションキー] ボックスに [製品アクティベーションキーの取得] で取得したアクティベーションキーを入力し、[保存] ボタンをクリックします。[閉じる] ボタンをクリックします。

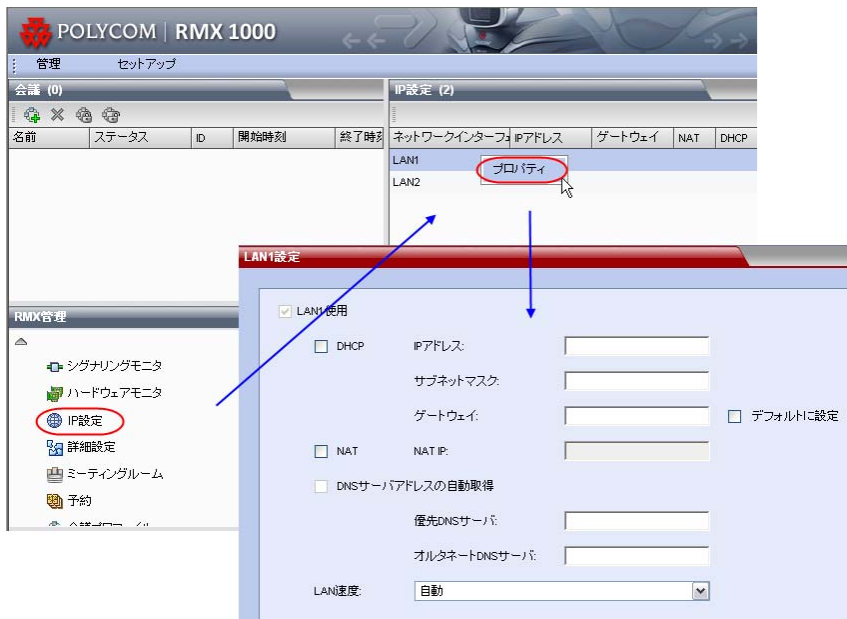


アクティベーションキーがない場合は、[Polycom Resource Center] ボタンをクリックして、Polycom Web サイトの [Service & Support] ページにアクセスします。詳細については、「製品アクティベーションキーの取得」をご参照ください。

## デフォルトの IP アドレスの変更

RMX 1000 の Web コンフィグレーションインターフェイスにアクセスしたあと、ローカルネットワークの設定に基づいて、デバイスのデフォルトの IP アドレスを変更することができます。

- 1 [RMX 管理] ペインで、[IP 設定] をクリックします。
- 2 [IP 設定] コンフィグレーションペインで右クリックし、[LAN1] -> [プロパティ] の順に選択します。
- 3 [LAN1 設定] ダイアログボックスで、ネットワーク管理者から取得した IP アドレスを設定し、デバイスをローカルネットワーク上で使用できるように構成します。





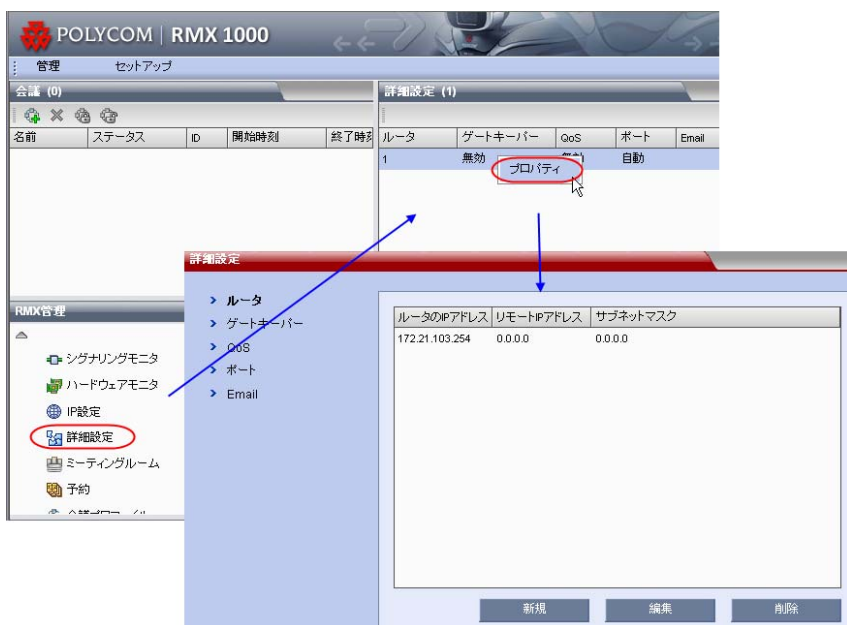
パラメータ	説明
[LAN1 使用]	ネットワークポートを有効または無効にします。
[DHCP]	DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバを使用するようにネットワークを構成している場合は、このオプションを選択して IP アドレスを自動的に取得します。 静的 IP アドレスを使用する場合は、このオプションの選択を解除します。この場合、以下の 3 つのパラメータを構成する必要があります。
[IP アドレス]	このネットワークポートの IP アドレスを設定します。
[サブネットマスク]	このネットワークポートのサブネットマスクを設定します。
[ゲートウェイ]	このネットワークポートのデフォルトゲートウェイアドレスを設定します。 <b>[デフォルトに設定]</b> オプションを選択すると、一致する静的ルートが存在しない場合に、デバイスパケットがデフォルトでこのゲートウェイ経由で転送されます。この場合、 <b>[詳細設定]</b> -> <b>[ルータ]</b> ページの一覧にデフォルトルートが表示されます。
[NAT]	NAT (Network Address Translation) 機能を使用すると、送信前にプライベートネットワーク IP アドレスがパブリックネットワーク IP アドレスに変換されます。NAT を有効にするには、このチェックボックスを選択し、外部に公開するパブリックネットワーク IP アドレスを [NAT IP] フィールドで設定します。
[DNS サーバアドレスの自動取得]	[DHCP] オプションと組み合わせて使用します。 [DHCP] チェックボックスが選択されている場合、このオプションを選択すると、DNS サーバのアドレスがネットワーク内の DHCP サーバから自動的に取得されます。

パラメータ	説明
[優先 DNS サーバ/オルタナート DNS サーバ]	DNS アドレスの自動検出オプションを選択しなかった場合は、このフィールドに優先 DNS サーバ/オルタナート DNS サーバのアドレスを入力して、デバイスがドメイン名を解決できるようにする必要があります。
[LAN 速度]	<p>LAN ポートの速度/デュプレックスモードを設定します。サポートされている速度/デュプレックスモードは、10M/100M の全二重モードまたは半二重モードと 1000M ネットワークモードです。また、[自動]を選択して、スイッチポートとの自動ネゴシエーションを使用することもできます。</p> <p><b>メモ:</b> [LAN 速度] を設定する前に、スイッチのコンフィグレーションが MCU ポートと一致していることをネットワーク管理者に確認します。</p>

## 詳細設定 (オプション)

必要に応じて、以下の手順に従って他のネットワークパラメータを構成することができます。

- 1 [RMX 管理] ペインで、[詳細設定] をクリックします。
- 2 [詳細設定]コンフィグレーションペインで、リストの項目をダブルクリックするか、右クリックして [プロパティ] を選択します。
- 3 次のダイアログボックスで、ネットワーク要件に基づいてルーティング情報を設定します。



パラメータ	説明
[ルータの IP アドレス]	パケット送信の送信ルータの IP アドレスを設定します。
[リモート IP アドレス]	パケット送信の転送先のネットワークアドレスを設定します。
[サブネット マスク]	転送先のネットワークのサブネットマスクを設定します。

- 4 [ゲートキーパー] タブをクリックし、必要なゲートキーパー情報を設定します。

パラメータ	説明
ゲートキーパー (GK)に登録	ゲートキーパーに登録するかどうかを設定します。以下のパラメータを設定する場合は、このオプションを選択する必要があります。
プライマリGK (オルタネートGK)	デバイスがプライマリ GK (オルタネート GK) に登録されているかどうかを示します。
GK IP アドレス	プライマリGK (オルタネートGK)の IP アドレスを設定します。
GK ポート	プライマリ GK (オルタネート GK) のポート番号を設定します。
システムプリフィックス/E164	システムの E.164 を設定します。
システム H.323 エイリアス	システムの H.323 エイリアスを設定します。

**5 [OK]** ボタンをクリックして、コンフィグレーションを完了します。  
これで、システムが使用できる状態になります。他のコンフィグレーションについては、『*RMX 1000 ユーザーガイド*』をご参照ください。

# RMX 1000 V1.1 リリースノート

## RMX 1000 のポリシーと制限

タイトル	説明
MGC とのカスケード接続	RMX 1000 の会議通信速度は、MGC の会議通信速度と同じか、それ以上でなければなりません。
PCM (Personal Conference Manager)	HD ビデオスイッチングと H.264 720p の両プロファイルは、PCM をサポートしていません。 これらを使用した会議にダイヤルするには、次のいずれかの方法でダイヤルインする必要があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>▪ ロビーからのアクセス(会議へのアクセスに ID を使用)</li><li>▪ IP ## NID ##パスワード</li><li>▪ [プリフィックス][NID]##パスワード</li></ul>
H.264 コンテンツ	H.264 コンテンツをサポートするプロファイルを選択した場合、H.264 をサポートするエンドポイントがコンテンツを送信する際、受信側のエンドポイントは、H.264 コンテンツをサポートしている限り、そのコンテンツを正常に受信することができます。H.264 コンテンツをサポートしていないエンドポイントは、コンテンツを受信することができません。H.264 コンテンツをサポートしていないエンドポイントがコンテンツを受信できるようにするには、コンテンツの送信側エンドポイントでコンテンツの送信を停止した後、コンテンツを再送信する必要があります。このあと、すべてのエンドポイントが、共通の最大解像度でコンテンツを受信できるようになります。
Email による通知	Email による通知は、SMTP をサポートしています。
720P の会議	通信速度が 1Mbps 以上の会議では、720p をサポートしています。
4CIF の会議	通信速度が 384Kbps 以上の会議では、4CIF をサポートしています。

タイトル	説明
AES の会議	<p>1. AES が有効な会議に、ロビーからアクセスすることはできません。この会議にダイヤルするには、目的の会議に直接ダイヤルする必要があります。</p> <p>2. AES プロファイルをデフォルトに設定することはできません。これは、ロビーから AES 会議にアクセスすることはできず、ロビーから Ad Hoc 会議を作成するときにはデフォルトのプロファイルが使用されるためです。</p>
RMX 2000 との統合	<p>RMX1000 は、RMX 2000 との H.239 カスケードをサポートしています。ただし、その場合、AES 暗号化の会議を定義することはできません。</p>
SE 200 との統合	<p>RMX 1000 と SE200 との統合が正常に機能するためには、まず、RMX 1000 を SE200 のデバイスリストに手動で追加しておく必要があります。これにより、RMX 1000 を SE 200 に登録できるようになります。</p>

## 未解決の問題

JIRA 番号	タイトル	説明
MCS-468	CDR 名	会議名に日本語、中国語、韓国語を使用した場合、Windows システムに CDR ファイルをダウンロードすると、ファイル名が文字化けすることがあります。
MCS-458	SONY 製品とのインターオペラビリティ	Sony PCS-G70 および G50 が RMX 1000 に接続された場合、H.239 コンテンツの送受信を行うことができません。
MCS-444	LifeSize 製品とのインターオペラビリティ	RMX1000 は、LifeSize ルームシステムから発信された DTMF トーンを認識することができません。
MCS-439	VSX8000 とのインターオペラビリティ	RMX1000 と VSX8000 が接続された場合、2SIF はサポートされません。
MCS-411	Aethra VegaStar Gold とのインターオペラビリティ	Aethra VegaStar Gold はサポートされていません。
MCS-408	Tandberg 880 および 6000E とのインターオペラビリティ	Tandberg 880 および 6000 E はサポートされていません。
MCS-402	Tandberg Edge95 MXP とのインターオペラビリティ	1920k ビデオスイッチ HD 会議において、Tandberg Edge95 MXP がコンテンツを送信した場合、HDX はゴーストやタイル状の画像を受信することがあります。